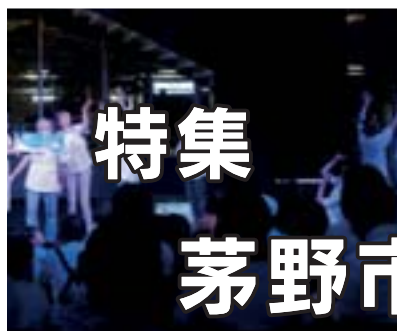


広報 2018

ちの
Chino City

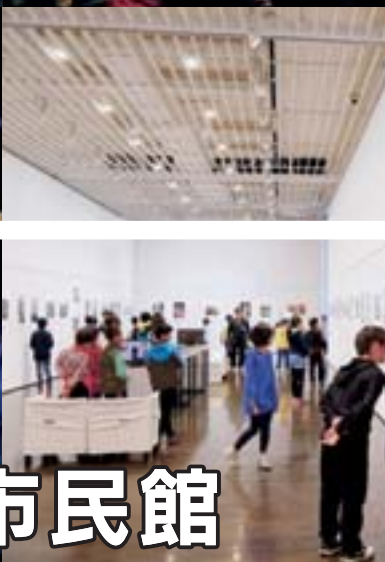
平成30年 No.883

1月号



特集

茅野市民館



みんなの遊び場
みんなの広場



【今月の表紙】茅野市民館は市民主導で検討が行われ、2005年10月にオープンしました。さまざまな表現やアートに親しみ、文化をつくり、人々が集う、地域の交流拠点を目指す市民館に関わる様々な人の声を聞きました。

市民館はみんなの遊び場、みんなの広場

Chino
Cultural
Complex

いとこみっけ！

「市民一人ひとりが主人公になれる場」の理念のもと、建設計画から市民が直接参加してつくられた、地域の文化施設「茅野市民館」。2005年の開館から13年目を迎え、改めて〈芸術から産業まですべての生活にかかわり地域の文化創造に関与していく〉というミッションを胸に運営しています。

市民館は茅野市美術館を併設し、劇場・音楽ホール、市民ギャラリー、図書室、レストランなど、さまざまな機能を合わせ持ち、利用する方によって多様な使い道のある施設やスペースを有しています。JR茅野駅東口に直結した立地で、さまざまな表現やアートに親しみ、文化をつくり、人々が集う、地域の交流拠点を目指しています。

地域文化をつくる主人公は地域の皆さん。いろいろな人の暮らしのなかから生まれる想いや、さまざまな表現への興味を受け取り合い、表現し、生み出していく。そんな“市民の館”^{やかた}で、あなたも一緒に楽しみませんか？

基本理念

- ・市民一人ひとりが主人公となれる場
- ・幅広い人々の交流の場
- ・芸術から産業にいたるまでの地域文化の創造と情報の受発信
- ・茅野市の顔としての環境づくり
- ・中心市街地のまちづくり

茅野市民館

1999年の基本構想から設計者選び、専門家との設計までを市民主導で検討。2003年に着工し2004年に株式会社地域文化創造が設立され、市民のパートナーとして運営を任せられました。そして2005年10月、「市民一人ひとりが主人公になれる場」が幕を開けました。



市民館ってどんなところ？



「ごっこ遊びを一緒に」茅野のCMつくっちゃおう

地域に暮らすあらゆる人たちの遊び場です

理念「市民一人ひとりが主人公になれる場」

The place where every community member takes a leading role.

人が行き交い、集い、楽しむコミュニティスペースです。

劇場ならではの体験ができる場所です

劇場の楽しさを地域に広げ、体験を通していろいろな人が個性を受け取り合い、新たなものを生み出す創造の館^{やかた}です。



『縄文の衣～喜びを伝える風と時間の祝祭』創作



対話による作品鑑賞（豊平小学校3年生）

アートと出会い、ふれあう場所です

茅野市美術館は郷土ゆかりの作家の作品約1,000点を収集、展示。市民サポーターによる対話鑑賞などを通して、アートを身近に届けることに取り組んでいます。

未知の表現、本物の芸術に出会う場所です

劇場・音楽ホールでは、国内外から一流のパフォーミングアーツ（実演芸術）を身近で体験できる鑑賞事業を行っています。



茅野市民館 みんなの劇場『世界のトビラ』モビール



アート楽しみ隊vol.23『鎧兜でじゃんけんポン』

文化体験を通して心を育む場所です

未来をつくるこどもたちへ向けた取り組みや、地域に暮らす皆さんに扉を開く体験事業を行っています。



茅野市民館 よりあい劇場（事業提案 発表）

街を生き生き楽しみ発信する場所です

芸術から産業にいたるまで、地域に暮らす人たちとともに考え、駅前市街地から発信する取り組みを行っています。



おでかけ美術館
（栄沢小学校にて）



おでかけ劇場
（こども館0123広場にて）

地域に出かけて文化芸術を広めています

劇場、美術館の楽しさを伝えるため、市民サポーターの皆さんと地域の施設や学校へワークショップや出張授業などに出かけています。市民の皆さんが主体となる活動も地域で広がっています。

「貸館」で大勢の皆さんにご利用いただいています

市民館は「貸館」も盛ん。劇場・音楽ホールや市民ギャラリー、多目的なスペース、中庭などの共有スペースで、利用者の方が主催する多彩な催しが開かれています。



市民祭「茅野どんばん」オープニング

コラム

想いを受け取り合う 茅野市民館 よりあい劇場

地域に暮らす一人ひとりの文化への思いや、さまざまな表現への興味を知り、知恵や工夫を出し合い、事業として実現する「文化創造」のプロセスを大切にしたい。そんな思いを込め、市民館・美術館では毎年、地域の皆さんから事業のアイデアや提案を募っています。「よりあい劇場」は、想いを伝えて文化の種を見つけるアイデア発表の場。

発表内容の「いいところ」を参加者の皆さんが見つけます。そのアイデアと感想が、主催事業の検討に生かされています。



茅野市民館 よりあい劇場（2017年4月22日）

インタビュー 市民館と地域のつながり

市民館は市民の声から生まれた館。市民館の成り立ちから今後地域に与えるものまで、オープン前から市民館に関わってきた指定管理者(株)地域文化創造 代表取締役社長の辻野氏と、指定管理者と協働で運営に関わっているNPO法人サポートC理事長の八幡氏に話を聞きました。



NPO法人 サポートC 理事長
八幡 香 氏

市民館にとってNPO法人サポートCは、市民館を共に運営していく協働者。市民館をつくらうと声をあげた市民の意思を引き継いで市民館をサポートしています。

『サポートCはみんなの応援



茅野市民館ディレクター
辻野 隆之 氏

市民館の基本構想は1999年に「地域文化を考える会」という市民の声があがって、行政がそれを支援するという形で準備が始まりました。市民館がオープンする2005年まで、市民が主体となって、行政がそれ

を支援して、専門家を交えて、地域文化振興の館づくりを進めてきました。市民館指定管理者(株)地域文化創造はその中で形成された専門家集団。ディレクターの辻野氏は、市民館の基本計画に共感し、これまで市民館の管理運営を行ってきました。

『私はずっと東京で働いてきました。バブルの頃、世界中から先端アートが集まってきて、それを紹介する仕事をしていましたが、バブルが弾けたときに、さーっと潮が

引き、日本全体にどれだけ蓄積されたのか疑問でした。そんなとき茅野市民館の計画を聞いて、地域に文化芸術を根付かせるようなビジョンを実践し、地域に積み上げていかなければならないと思いました。』

市民館という文化施設は、これまでの文化施設の定義である「文化施設は文化芸術の振興のためにあるべき」ということだけではなく、「地域づくりのためにあるべき」という考えのもとで計画が進め

られてきました。現在、啓蒙ではなく創造するという考え方は全国に広がりつつありますが、市民館ではその構想が十年以上前からできていました。『考えてみれば当たり前のことですが、地域の文化を創っていくのは地域の人々。今はそれが当たり前になっていますが、それまでの時代は、「いい文化があるからそれを広めよう」というものでした。

茅野市は生涯学習重点地区として、古くから公民館活動が活発でした。

公民館での生涯学習活動は、従来の個人およびグループ、団体がこれまでの事柄を学習するという位置づけ。市民館での生涯学習活動は、一人ひとりの「切なる思い」が表現され、「創造する」活動。個人、地域の未来に向かって学習していく、創造していくという新しい生涯学習像が目標とされました。』

そういった思いを実践する市民館。文化芸術が豊かな地域づくり、豊かな人間形成につながり、

結果として産業の活性化にもつながると辻野氏は話します。『市民一人ひとりが主人公になれる場をつくること。市民の「やりたい」という切なる想いに対応していくことが市民館の、指定管理者の使命の一つ。通常は「やりたい」ということが難しいことならば「できない」という。しかし市民館の姿勢は、どうやったらできるかを専門的に整備する。それが我々の特徴であり使命だと思っています。』

隊。サポートCを必要としてくれているすべての人に間口を開いています。自分たちの生活を楽しむ方法を提案したり、地域で文化活動をしている方同士の連携を図る場をつくったりしている組織です。』

文化芸術を通して地域の魅力を高めるサポートC。その業務の一つとして市民館の協働者で心がけていることについて聞きました。

『サポートCの活動は、行政と市民をつなぐジョ

イントになったらというところから始まっています。どちらにも偏らないで、伝えていけるような立場であるべきだと思います。地域の活性化を図ることに、文化芸術は関わりが深く、外せないものの。心が豊かであればこそ地域が元気になるし、それがいろんな形で結びついて外に広がりを見せます。『あの場所、素敵だよね、いいんだって!』と聞くとそこに行きたくなる。そういう形が茅野市の中でもいろんな所で

起こることで、自分たちの地域を愛する心も育つていくと思うし、外の人も関心を持ってくれます。それには私たちが文化芸術の中で心豊かに過ごしていることが大切。市民館は新しいものを提案してくれて私たちに刺激を与えてくれる場所。サポートCはそれを市民の方に伝える一助になればと思っています。』

心が豊かになることが地域が元気になることにつながります。文化芸術を通して何かやりたい、発

信したい、交流したい人をサポートCは応援します。『文化芸術は敷居が高いと思われがちですが、生活に密着しているものだと思ってもらいたいです。例えばご飯茶碗の模様や文房具のデザインは、自分たちが育ってきた環境の中で育った感性で選んでいる。文化芸術という部分でいろんな機会に触れていると、素敵な感性が育っていく。そう考えると文化芸術は生活の中ですごく密着している

と聞くとそこに行きたくなる。そういう形が茅野市の中でもいろんな所で

と思うんです。私たちが思い思いに素敵な生活をしていると、その人の人間力とか魅力になって、外への発信につながっていく。そうすると外からもあの場所がいいねと交流ができて地域の活力になる。時間はかかると思いますが、文化芸術はすぐ当たり前に存在するものだ、みなさんに近寄ってきてもらいたいですね。』



市民館でこんなふうに 楽しんでいます！



こどもたちが何かを感じていたり、自信がついたのかもしれないということに出会うと、涙がでるほどうれしい。

両角 早代さん(左)

サポーター7年目。劇場や美術館、交流するコミュニティの活動や、館外に出かけて楽しさを伝える活動など、興味のあることに顔を出してたくさんやっています。いろいろな素晴らしい才能に出会えるのが楽しみ。こどもたちと触れて、大人になって忘れてしまった純粋な視点にも出会っています。

本間 多恵子さん(中央)

サポーター2年目。美術館で対話による鑑賞や受付、イベントの企画に関わっています。自分が楽しく、そしてみんなに喜んでもらえるといいなと思ってやっています。美術が好きなので素人ですが、楽しいですから皆さんもぜひ一緒にどうぞ！

森田 由紀子さん(右)

サポーター2年目。絵を観たり描いたりするのが好きです。対話による鑑賞では、自分のなかになかった見方を逆に教えてもらい刺激になっています。美術館の受付は、長い時間その場にいるので絵の世界に浸れるのと、作家の方のお話をより深いところまでお聞きできるので、興味も深まっています。

茅野市民館

所在地 茅野市塚原一丁目1番1号

☎0266-82-8222

開館時間 午前9時～午後10時
図書室、常設展示室は午前9時～午後7時

休館日

火曜日(祝日の場合はその直後の休みな日)、年末年始(12月29日～1月3日)



人とも、ものごととも、自分の知らない世界に出会える。もうやめられない！

小平 久美子さん(左)

サポーター10年くらい。最初は美術館、そのあと劇場フロントスタッフにもなりました。対話による鑑賞で、小学生が作家の方と一緒に鑑賞したとき、疑問を尋ねて返ってきた答えがこどもたちのなかにきちんと伝わっていると感じることもあり、素敵な場面に立ち会えて、なんて幸せなんだろうと感じます。

小平 松枝さん(右)

サポーター7年目。劇場のフロントスタッフをしています。いろいろな方と接することができて楽しい。印象に残っているのは「茅野ふるさと祭」での槻木舞台の再現。眠っていた舞台が元気になったのを目の当たりにして感動しました。今でも使われていて、繋がっているのが本当に嬉しいです。



市民館でつくったパフォーマンス「縄文の衣」に出演しました。

馬場 祐奈さん(左端)

鹿のシーンで走って、ジャンプしたら布がふわっとなって楽しかったです。

河西 陽夢さん(中央左)

初めて市民館の企画に参加。発表するのが苦手で練習も難しかったけど、本番は爆発できて楽しかったです。またやる企画があったら早くやってみたいです。

馬場 智也さん(中央右)

前、カブかん囃子に参加しました。布でつくるのって不思議で楽しい。「自由に」って言われたので難しくなかったです。

座間 雛李さん(右端)

市民館でいろいろなワークショップに参加してきたけど、しゃべらないで「もの」で表現するのは初めてでした。自分の学校の体育館が会場で、照明がすごく本物の舞台みたいでびっくり。また参加したいです。



ひとりじゃないと感じる、大人が遊べる「遊び場」。

小川 清さん(左)

市民館協議会の委員をやっていますが、その立場とは別に一般市民として演劇のワークショップなどに参加しています。よりあい劇場でアイデア提案もしました。大人が遊べる、いい遊び場。せっかく地域にある施設だから、すべての要素を体験してみようと思っています。

市川 和宏さん(右)

芝居に関わる仕事をしてきて八ヶ岳の麓に移住。ここに来ると自分がひとりじゃないと感じます。演劇や舞台関係のワークショップなど、いろいろな企画があって面白い。仕事で全国の公共ホールを見てきましたが独自のスタンスでやっていて珍しく、市民と一緒にやっていけばすごい館になると思います。



年齢層の幅が広い、いろいろな人と出会える。ごちゃまぜの空気感が好き。

武田 紗弥さん(左)

演劇や舞台関係のワークショップに参加して、演劇の楽しさを届ける「おでかけ隊」の活動をしています。人見知りだったけれどもいろんな人と出会って興味をもつようになり、自信もついてきました。日々、発見と勉強。もっと人生経験を積んで成長していきたいです。

加藤 孝昭さん(右)

サポーター6年目くらい。美術館の関わりで入ってきたけれど、だんだんみんなでつくる方に。ふだんの生活では接点のない関係が自然にできる場。自分の経験を行為や表現で気づいてもらえたら…という人生のバトンタッチをしているつもりで、それを受け入れてくれる素地のある場かなと思っています。